

| 項目             | 重点項目                          | 現状<br>(◎△) | 達成目標・具体的施策                                                                                                                                                | 自己評価<br>(◎△) | 成果と課題                                                                                                                                         | 改善策                                                                                                           | 学校関係者評価                                                  |
|----------------|-------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 学びの場である教育保育の充実 | 『自分が好き』<br>「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築 | ○          | ・「一人一人の子どもに愛情豊かに関わり、全ての子どもが明るく元気に園生活を送れるよう支えている」アンケート項目で肯定的な回答が80%以上になる。<br>・クラスの話し合いや学年、乳児や幼児の会議において一人一人の子どもの素敵などところについて共有する。                            | ◎            | ・アンケートは肯定的な回答が100%であった。<br><br>・月1回の会議や研修等だけでなく日々子どもの素敵などところを共有できる職員集団となっている。                                                                 | 愛情豊かに関わるために、子ども・職員間で気付いたことを、温かいまなざしで共有するような関係を一人ひとりが意識し、実践し続ける。                                               | ・プラスの視点で言葉を掛け、引き続き子どもへの愛情深い関わりを行って欲しい。                   |
|                | 『人が好き』<br>ちがいを認め合える仲間づくり      | ○          | ・「友達や保育者と関わる中で、人に対する信頼感や一緒にいる心地よさを感じている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上である。<br>・話し合いや会議等で子どもの姿を共有する。遊びの場を自由に選択できる保育環境を整える。異年齢交流をする機会を作る。                             | ○            | ・アンケート結果は肯定的な回答が100%であった。<br><br>・異年齢で生活する機会をもつことで、子ども同士の関わりが広がる様子が見られた。遊びの場を整えることで、やってみようとする気持ちが生まれやすくなり、人との関わりを楽しむ姿が増えてきた。                  | 人との関わりの中で学び育っている姿を可視化しながら家庭との連携も取りながら子どものよりよい関係づくりに努める。                                                       | ・今後も園内外の人と関わり合うことで、人と一緒にいる心地よさを感じながら園生活を過ごして欲しい。         |
|                | 『遊ぶのが好き』<br>資質・能力を育む保育の推進     | ○          | ・「こども園で自分のやりたい遊びがあり、その遊びを楽しもうとしている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上である。<br>・職員自身が研究したい環境の場所を決め、子どもの姿から環境作りを行い、取り組みの共有をする。<br>・付箋に記入後、休憩室のパネルに貼り、環境の再構成を行う。            | ○            | ・アンケート結果は肯定的な回答が100%であった。<br><br>・定期的に話し合い、環境の再構成を行うことでわくわくするような環境設定になってきている。<br><br>・気付いたことを常に共有できるようにすることで意識できるようになった。                      | 環境は整ってきているが道具や物の片付けなどが雑になっている。<br>自己研鑽に努め、アイデアを出し合いながら遊び込める環境を作っていく。                                          | ・園に行ったら、やりたい事や楽しみにしている事がある環境を整えることで、登園意欲が増すと思う。          |
| 保育者の資質向上       | 職員研修・園内研修の充実                  | ○          | ・「子どものやってみたい気持ちに寄り添う教育保育を実践している」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上である。<br>・各クラス年2回公開保育実施する。また、子どもの姿を読み取る語り合いを月1回以上実施する。<br>・職員が自分の持ち味を知り業務に活かすことができるようにする。              | ○            | ・アンケート結果は肯定的な回答が100%であった。<br><br>・年4回の公開保育で講師やアドバイザー等から、課題が明確になり改善に進むことが出来た。しかし、子どもの姿の読み取りの進め方を再検討し、より学びの深まるものに改善する余地がある。                     | 幼児理解の大切さ等を実感できているので、記録の取り方なども含め、研修の内容を再検討し、次年度に繋げる。                                                           | ・子ども達が「やりたい事や楽しみにしている事」が常にあり続ける為に、今後も努力を続けて欲しい。          |
|                | チーム保育の推進                      | ○          | ・「複数の職員が連携を取り合いながら、チームで保育を行っている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上である。<br>・クラスや学年、園全体で会議や共有の時間を作る。また、ノートを活用して保育の環境作りに繋げる。<br>・時差勤務や異年齢交流等の保育の中で、子どもを多面的に見守り、連携共有する。     | ○            | ・アンケート結果は肯定的な回答が90%以上であった。<br><br>・教育保育目標の実現を確かめながら保育を計画し、学年の垣根を越えて教育保育を進めることができた。<br>・伝達や共有には今後もノート等に可視化することで、確実に共有できるようにする。                 | 異年齢交流を、年間で計画を立てて保育を進める。研修で作成した資料等を掲示して全職員で情報共有をする事を引き続き取り組む。<br><br>教育保育目標、教育課程を共有し、子どもに関わる職員が同じ方向性を持てるようにする。 | ・各職員の役割（担当）を明確化し、個々の得意分野を活かしながら園運営を行っていくことが大切である。        |
|                | 小学校教育との接続                     | △          | ・「なめらかな小学校接続を意識し、小学校がより身近な環境と感じられるような教育保育を進めようとしている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。<br>・年間計画をもとに小学校の校庭やプール、図書室等に行く。                                               | ◎            | ・アンケート結果は肯定的な回答が90%以上であった。<br>・年間計画をもとに、小学校の施設利用を定期的に行うことができた。児童・園児の交流を4回行うことができた。<br>「満足している」の項目は、小学校との交流が5歳児に偏っていた為か5歳児保護者以外の回答が難しかったようである。 | アプローチカリキュラムをもとに小学校接続を見据えた保育を職員間で共有する。<br>保護者配信に遊びの中の気づきや学びを10の姿などを用いながら伝えられるようにする。                            | ・小学校が隣接しているという特色を活かして欲しい。また、今後のびのびと園生活を送り、生きる力を育ていって欲しい。 |
| 開かれ信頼される園づくり   | 職員の危機管理能力の向上                  | △          | ・「避難訓練や交通安全指導等、乳幼児の安全に関する適切な指導を行っている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。<br>・季節や状況に応じて発生しやすいリスクを共通理解し、それに応じた対応を確認したり、マニュアルを見直したりする。<br>・園内及び他園のリスクを検証し、自園リスク軽減に繋げていく。 | ○            | ・アンケート結果は肯定的な回答が100%であった。<br><br>・不審者訓練では、警察の指導の下訓練を行ったことで個々の危機意識が向上した。市全体で作成しているマニュアルに反映していけるようにする。<br>・自園のリスクは回覧で共有しているが、全員に詳細まで浸透する事が難しい。  | 職員リスクは特に目につくようマークをつけたり、職員ノートに記載したりするなどし、同じようなリスクを繰り返さないようにできる環境を整える。                                          | ・警察や消防から受けた指導をもとに、危機意識をもって、子どもの命を守る為に訓練を続けていって欲しい。       |
|                | 園情報の積極的な発信                    | ○          | ・「園の情報・教育保育内容を保育システム（icuco）、掲示板、ホームページ等を通じて適宜保護者に伝えている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。<br>・月1回HP更新し、個別アプリで子どもの様子や今の育ち、保育の意図等を配信する。                                | ○            | ・アンケート項目で肯定的な回答が90%以上であった。<br><br>・写真配信等について好意的な意見が多数であったが、動画配信については要望があった。                                                                   | 動画配信の内容や頻度などについては検討し、さらなる園の教育保育の可視化へつなげていく。<br><br>子どもの今の姿を知らせ、育ちを共有できるようにする。                                 | ・子どもが何を楽しいと感じ、遊びから何が育っているのか、子どもの育ちを発信し続けて欲しい。            |
|                | 地域交流<br>子育ての支援                | ○          | ・「園庭開放や育児相談、子育ての支援（在園児対象の預かり保育・未就園児対象のさくらっこ広場）等を行っている」アンケート項目で肯定的な回答が90%以上ある。<br>・未就園児親子対象に遊びの広場を開催する。<br>・在園児に向け、毎月預かり保育及び園庭開放や育児相談を行う。                  | ○            | ・アンケート項目で肯定的な回答が90%以上であった。<br><br>・未就園児対象に年間9回延べ270人利用があった。<br>・園庭開放は月平均200人以上、育児相談は月25件以上利用され、地域の子育て支援センター的役割を担えるようになってきている。                 | 今後も、親子が安心して子育てを行っていけるよう、遊べる場を提供したり、育児相談を行ったりし、親子に寄り添う支援を行っていく。                                                | ・地域活動が活発な地域の強みを今後も園教育保育に活かしていって欲しい。                      |
| 関係者評価総括        |                               |            | ・小学校以降の不登校対策にもつながるように、園に行く楽しみや喜び、会いたい人等一人ひとりの目的がもてるようなこども園であって欲しい。                                                                                        |              |                                                                                                                                               |                                                                                                               |                                                          |
| 次年度に向けた重点的な改善点 |                               |            | ・園、家庭、地域、それぞれが各役割を果たし子どもの育ちを支えることを重視し、その中で園の役割は何かを明確にし、実践していく。                                                                                            |              |                                                                                                                                               |                                                                                                               |                                                          |